

最強タッグ結成で狙うぞ

J1昇格

ISPS

東京ヴェルディ

コーポレートパートナー契約締結を発表

一般社団法人国際スポーツ振興協会(半田晴久会長、以下ISPS)とJ2東京ヴェルディが、2017年シーズン(2月26日開幕)からのコーポレートパートナー契約を締結し、14日、東京・新宿区の京王プラザホテルで発表記者会見が行われた。目指すは「世界一のクラブ」という。



半田会長(中)はヴェルディとのスポンサー契約に「運命を感じた」と話した

今回のメインコーポレートパートナー契約について半田会長は「運命を感じたのです」とひとこと。既にゴルフでは、世界各国外でも年間65試合以上スポンサーを務めるなど確固たる地位を築いている。サッカーでも、南アフリカ・プレミアリーグのムフマンガ・ブラックエイジス(現ケープタウン・シティFC)のメインスポンサーを務めた他

現在はニュージーランドサッカー協会のメインパートナーに名を連ねている。満を持して国内サッカーの支援に乗り出すにあたり、パートナーに選んだのが、長らく低迷するかつての名門・東京ヴェルディだった。ヴェルディを選んだ理由について半田会長は「特筆すべきはクラブの育成システムです」と語る。ヴェルディは前身の「読売クラブ」時代から、他クラブに先がけてジュニア、ユース、U-18、U-19、U-20と一貫した指導方法で選手の発掘、育成を行ってきた。そこから多くの日本代表、Jリーガーを送り出し

ており、「クラブ創立以来、サッカーの底辺を拡大する、様々な取り組みに対して賛辞を贈りたいです」と同会長。ヴェルディの掲げる「選手育成によるサッカー文化拡大の理念は、ISPSのスポーツ振興を通じた社会貢献に通じるものがある」という。同会が今回のコーポレートパートナー契約に「運命を感じた」という大きな理由といえる。

この日の会見には、スペイン人のミゲル・アンヘル・ロドリゲス新監督や、新加入した日本代表のMF橋本大介、DF永田亮が出席。新指揮官の下、実績のある選手を獲得補強したことで、東京ヴェルディの幼生英才社長もチームの始動からまだ3日ですが、非特異的な練習ができていくと感ぜています。ISPSの支援とともに、大きな期待を込めても「スタートをうまく進めたい」と、今シーズンに思いまっとうしたいと語る。

ISPSのロゴは、シーズンの開幕からホーム、アウェイの試合用ユニフォームの胸、ゴールキーパーの胸、ボールなどに掲出される。半田会長からは選手やフロントに向けて「J1昇格(優勝)さらには究極の目標としてFIFAクラブ杯制覇が語られた。クラブの世界一を目指し、今シーズンに勝つ、来年に勝つ、さらにはヨーロッパを駆けまわろう」と豪快に打ち上げ、各層復活に全面支援を約束した。